



千葉県警察シンボルマスコット シーポック

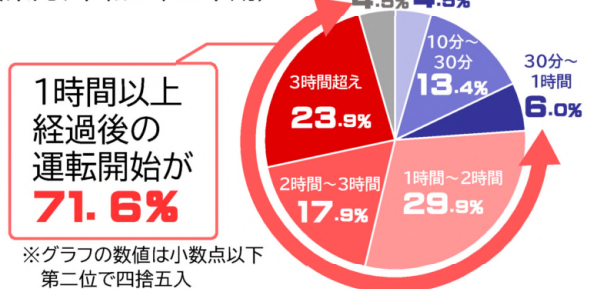
「酔っていないから大丈夫だと思った」「お酒は抜けていると思った」…こういった理由で飲酒運転をする人が後を絶ちません。今回は、飲酒が運転に及ぼす影響やその時間について解説します。

飲酒運転事故はいつ発生？

飲酒終了から運転開始までの経過時間のうち、
1時間以上経過後の事故が約7割
3時間超経過した場合の事故も2割以上
※人身事故のみ集計

▶ **飲酒後、数時間たっても
お酒の影響による事故が発生！**

飲酒運転による人身事故における、飲酒終了から
運転開始までの経過時間
(県内、令和6年上半期)



こんな「誤解」していませんか？

誤解① 少し飲んだだけだから大丈夫？

アルコールは“少量”でも脳の機能を麻痺させます。
飲酒して運転すると、気が大きくなり速度超過などの危険な運転をする、危険の察知が遅れる、ブレーキを踏むまでの時間が長くなるなどの悪影響がわかっています。



**お酒を「少し」でも
飲んだら運転はダメ！**

誤解② 飲酒のあと、ひと眠りしたから大丈夫？



ビール500ml分に含まれる純アルコール(20g)を体内で分解するには、目安として **約4時間** かかります。
※体重60kg成人男性の場合(個人差があります)



睡眠中はアルコールの分解がさらに遅くなります
**「ひと眠り」程度では
お酒は抜けません！**



参考：政府広報オンライン「気づかず飲酒運転 意外と知らない お酒が抜ける時間【字幕付】」▶

飲酒運転をなくすための3つの約束

お酒を飲んだら運転しない

飲酒する場所に車で行かないようにするなどの対策を。
翌日に運転する予定があるときは、飲酒量・時間に注意！

運転する人にはお酒を飲ませない

飲酒運転するおそれがある人にお酒を勧める行為には、罰則があります。

お酒を飲んだ人には運転させない

飲酒運転と知りながら同乗する行為には、罰則があります。



千葉県警察ホームページにて、飲酒運転根絶に関する情報を公開しています

● 飲酒事故発生マップ ● 飲酒運転受刑者の手記 ● 動画 など 「飲酒運転根絶に向けて」▶



飲酒運転は絶対しない、させない、許さない！